認定特定非営利活動法人
青少年の自立を支える会　通信
冬
令和２年
会報　第71号　　2020年1月

目　次

巻頭「体罰と戦争」
報告
第 10 回子どもの虐待をなくそう！県民のつどい
子どもの居場所担い手育成事業専門研修会
星の家まつり便り
《事務局より》第 21 回チャリティーコンサート
寄付･会費納入者　編集後記

はなの家のお正月

体罰と戦争

事務局長　福田 雅章

新年明けましておめでとうございます。本年もご支援の程宜しくお願い申し上げます。

さて 11 月 17 日（日）、済生会宇都宮病院みやのわホールにて、子ども・女性への暴力防止に取り組む森田ゆりさんをお迎えし、第 10 回「子どもの虐待をなくそう！県民のつどい」（以下、つどい）が開催されました。詳細は 3 ページ目をお読み下さい。

つどいを経ていくつか思うところがありましたので記しておきたいと思います。

ひとつは、児童虐待に対するマスコミの反応が弱くなったということです。10 回目の記念ということで、主催する側としてはかなり気合を入れて取り組みました。実際、行政金を得てオリオンスクエアで開催した２回のつどいを除いて最も多くの参加者を得ることができました。一方で 10 回目にして初めてマスコミの取材がありませんでした。虐待での死亡事例が相次ぎ、体罰の禁止が法制化されるなかにもかかわらずです。児童虐待がどの家庭にも起こり得ることと普遍化したためでしょうか、啓発を目的とした集会や防止のための市井のささやかな取組はすでに世間の耳目を集めなくなったということかもしれません。

もう一つは、私自身の心に潜む暴力の種に気づかされたということです。森田ゆりさんの講演後、最近の著書である「体罰と戦争」を購入しました。国際社会の中で武力を前面に出して解決を図ろうという動きが後を絶たないことから、ちょっと惹かれた題名でした。私は数多の養育実践から、虐げられてきた子どもに対して、言うことを聞かないからと言って大人が強圧的な言葉や態度でねじ伏せて無理やり言うことを聞かせることが、無意味であるばかりか逆効果であることを思い知らされてきました。にもかかわらず養育のプロセスでは自身の感情が逆なでされ怒りが込み上げてくることがしばしばです。森田さんは「体罰と戦争」のなかで、体罰と戦争の 8 つの共通点をあげていますが、その最初に「それがよくないことだとわかっていても、やめられません」と述べています。そのとおりです。北朝鮮の弾道ミサイル発射の報道を頻繁に耳にし、安全が脅かされている状況にアメリカの「力」に頼りたい自分がいることにも気づかされました。

年末、M-1 グランプリがありました。優勝したミルクボーイは“人を傷つけない笑い”と評されました。他人をいじったり自虐ネタによる笑いの潮流が少し変わってきたのでしょうか。優しさの広がりに希望も見えてきました。

「第１０回子どもの虐待をなくそう！県民のつどい」が１１月１７日済生会宇都宮病院（みやのわホール）で行われました。

★プレ勉強会のご報告★

映画「こども食堂にて」上映会

＆佐野翔音監督講演会

９月２２日（日）に、プレ勉強会が開催されました。１００名の参加がありました。全部をお伝えできないのが残念ですが、以下は、佐野監督講演会の概略です。

「子ども食堂」を舞台にした理由は？

子ども食堂は、貧困の子どもが行くところ、というイメージがあったが、実際に行ってみると、きゃっきゃっと子どもたちが走り回っている明るい所だった。しかし、話をしてみると、養護施設に２回入っていた中学２年の女の子だったり、家庭の経済的事情から、入りたい部活に入れない状況にある男の子だったり。外見ではわからない内面の問題を抱えていることがわかった。

また、そういう子どもたちを支えている、早くからきて準備して、子どもに話しかけて、学習支援を行っているスタッフをみて、こういう子どもたち、大人を映画で描かなければならない、と思った。

食べるシーンがよく出てきたが。

食事というのは、大切なコミュニケーションツール。食を介することで、コミュニケーションが生まれたり、気が楽になったりする。

↑講演中の佐野翔音監督

↑映画「こども食堂にて」食事の場面

食事でなくても、おやつや果物が出るだけで気持ちが和らぐ。子どもにとっては、食はとても親しみやすい。

子ども食堂の食を維持するには、近所の人が持ってきたり、フードバンクが持ってきたり。周囲の協力があって子ども食堂がある、ということも大事なことで、伝えたかった。

児童相談所のケースワーカーを登場させた理由は？

映画を作っている中でいつも思っていることは、頑張っている人を描いていきたい、ということ。

児相に関しては、虐待が起きたとき、何をやっているのか、と言う声もある。もちろん、嫌々児相で働いている人もいるだろうが、ケースワーカーで本当に頑張っている人もいて、２４時間３６５日、自分の時間もないぐらい頑張っている人もいる。そういう人達を見捨ててはいけないし、絶対忘れてはいけない。

地域で、児相だけで足りないところは、警察、学校、幼稚園、保育所みんなで協力して、子どもたちを助けていかなければならない。

児童虐待をなくすには私たちには何ができますか。

地域でなんとかしなければならない。子どもは、家庭、学校以外の逃げ場がない。地域で、子どもたちのSOSを見つけてあげるコミュニティ、居場所もそうでしょうし、そこで発見してあげてフォローしてあげる。そうやって、地域みんなで支えてあげることが大切だと思う。

子ども食堂に来られない子どももいる。家から出られない子どももいる。そういう親子もいると思うので、そこは児相とかの調査で見つけ出してもらって、フォローすることが大切である。

監督の思いが込められた映画ですね、と言われることが多いのですが、それ以上に、子どもに関わっている団体の思いがつまっている。それぞれが、自分の役割を果たしていらっしゃる。

私の映画は、そういう人達の思いを代弁している、みなさんの思いを代弁している。観た人が、何か気づくきっかけになればいいと思う。

佐野監督、ありがとうございました。

聞き手・文　　片桐　秀子

☆第１０回子どもの虐待をなくそう!県民のつどい☆

１１月１７日（日）に、県民のつどいが開催され、２００名の参加がありました。

長年子どもへの虐待、人権問題に取り組んでいらっしゃる森田ゆりさんにお話しを伺いました。

「生きる力」とは何か？

生きる力とは、自分を大切に思えることである。「自分は自分のままで十分尊い」と思えるとき、人は困難をも乗り越えて、生きていく力を発揮する。

人権とは、人が生まれながらに持つ生きる力、まるい力である。

「体罰は時には必要」というのがくせもの

深刻な身体的な虐待は、体罰は時には必要、という考えから始まる。しつけの名目でおこなわれる体罰が、DVや鬱病、家族関係の確執といったストレッサーが加わり、エスカレートしたものです。

体罰　＋　多重なストレス　＋　孤立

⇒身体的虐待に

「しつけ」とは？

「しつけとは、その子なりの自立と自律を大まかにガイドすること」である。

大きなガイドの３要素とは

① 子どもを丸ごと受け入れること

② 子どもの自分への自信を育てること

③ 子どもが自分で選ぶように援助していくこと

この順番が大事です。「安心」が大事。安心じゃなかったら、自由も自信も生まれません。

↑森田ゆり氏　作家/エンパワメントセンター主催

体罰の６つの問題性

① 体罰は、それをしている大人のはけ口であることが多い。

② 体罰は、恐怖感を与えることで子どもの言動をコントロールする方法である。

③ 体罰は、即効性があるので、他のしつけの方法が分からなくなる。

④ 体罰は、しばしばエスカレートする。

⑤　体罰は、それを見ている他の子どもに深い心理的ダメージを与える。
⑥　体罰は、ときに、取り返しのつかない事故を引き起こす。

野田事件、目黒事件で二つの命が失われました

どちらの事件も、一度は一時保護をし、その後家に戻っている。親が変わらなければ子どもは守られません。二つの事件で共通なのは、一度は一時保護を受けたのちの再虐待であること、母親がDV被害者であったこと。

司法の直接関与の法制度が緊急に必要である。その内容は、虐待をしている親の受講命令、DV加害者の更正プログラム受講命令が必要である。

では、虐待を防止するために、私たちにできることは？

「体罰は時には必要」という考えを変えるために、「体罰は時には必要なことはない」と伝えることです。

しつけのために体罰は全く必要ない。何一ついいことはない。

体罰は絶対しない、させないという意識を伝えていきましょう。

子どもの居場所担い手育成事業専門研修会（２０１９年度 第３回、第４回）が開催されました。

2019年度 第3回　令和元年7月9日（火）

「わたし、生きてていいのかな」映画上映会

映画鑑賞後、３グループに分けて、意見交換会

映画のあらすじ

母親から虐待を受けていた高校生が、虞犯少女として警察に保護され、子どもシェルターで暮らし始めます。

映画は、虐待、ネグレクトの現実、子どもたちが直面している問題、過去の傷を抱えたまま大人になった人達たちを描きます。

映画を観ての感想

- 最後の方の語りで、「一人ひとりがそれぞれに自分の道を進んでいけたのだから」という言葉が、印象的でした。
- 家族間の問題が、家族だけで解決できなくなったとき、寄り添う誰かの存在が必要になってくると感じました。

2019年度 第4回　令和元年１２月１０日（火）

テーマ　「事例検討のやり方を学ぶ」
～インシデントプロセス法に基づいたケース会議や協議の進め方を学ぶ～

司会進行　担い手育成事業主任ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　鈴木 友之 氏
助言者　児童養護施設養徳園心理士　東 瑞恵 氏
助言者　元「月の家」ｽﾀｯﾌ、担い手育成事業ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、社会福祉士　曽根 俊彦 氏
事例提供者　「月の家」スタッフ　服部 惇 氏

昨年に引き続き、事例検討の方法を実際に体験して、学びました。

事例検討を終えて

（参加者の感想）

・少ない情報から、子どもの様子から、何をつかみ、どう支援していくか、考えるきっかけになりました。
・今までの経験、創造力の全てを使っての検討で難しかったが、勉強になった。
・情報共有、ケース会議の大切さを感じた。

（司会進行、助言者から）

・家族のことを引き出すことが課題
・一歩踏み込んだ対応も時には必要
・生育歴、親子関係の情報収集が必要

星の家まつり便り
～2019年10月20日、ろまんちっく村にて～

2019年10月20日（日）、星の家まつりが行われました。ろまんちっく村での開催も３年目となりました。

天候にも恵まれ、沢山のお客様にご来場いただきました。そして、当日関わって下さったボランティアさんの数は約130名、その他イベント出演者として多数の方にご協力いただきました。純利益は134万円となりましたことをご報告いたします。青少年の自立を支える会の活動費として大切に使わせていただきます。

〈実行委員会〉

星の家まつりを開催するにあたり、４回の実行委員会を開催しました。今年も石原さんが実行委員長を引き受けて下さいました。バザーや模擬店の責任者さんも多数、お忙しい中、出席下さり、準備を進めてきました。

〈値付け〉

年間を通して皆様からいただいたバザー品に値段をつける作業を、９月28日（土）、10月１日（火）、５日（土）、８日（火）、12日（土）、15日（火）に、星の家および月の家にて行いました。物品を持ってきて下さる方もいらっしゃいました。洗剤などの日用品や食品などは、事前にチラシなどで値段をチェックしていたのですが、来て下さるボランティアさんたちの方が詳しく、「これは高い」「これは安すぎる」など意見をかわしながら、和気あいあいとした雰囲気での作業となりました。

〈まつり前日〉

まつり前日の19日（土）は、12時半に星の家に集合し、倉庫として借りていた星の家の目の前の平屋の建物と、南大通りの倉庫から物品をトラックに積んで運び出しました。昨年に引き続き、小島さん、木村さん、林谷さん、そして（株）ウナンさんがトラックを出して下さり、往復することなく、一度で荷物を会場まで運び込むことができました。

一方のろまんちっく村では、13時にボランティアさんたちが集合して下さいました。バザー品が届くまでに、ローズハット内の椅子や机を移動させたり、各売り場にシートをひいたり、大忙しでした。

物品が届いた後は、星の家集合のボランティアさんたちも加わり、まさに人海戦術。あっという間に、部門ごとに段ボールが会場内に運ばれました。その後は、段ボールから品物を出して、陳列に取り掛かっている部門もありました。

ご協力いただいたカルビー(株)の皆様、そして集まって下さったボランティアさん、ありがとうございました。

なお、10月12日に上陸した台風19号の豪雨により被災された方々に、星の家まつりで集まった物品の中から、下着類を寄付させていただきましたこともご報告いたします。

〈まつり当日〉

まつり当日は、会場係さん、各部門責任者さんは8時、その他ボランティアさんは8時半集合で準備作業に入りました。

イベントワーク(株)さんが模擬店で使うテント、ベンチ、机、椅子をトラックで運んできてくださいました。毎年のご協力に感謝いたします。男性スタッフの方もテント組み立て時に来てくださり、テントの組み立て方をテキパキ指示して下さり、とてもスムーズに会場準備を終えることができました。イベントワーク(株)さんは、綿あめの出店でもご協力いただきました。

10時になるとボランティアさんたちがローズハット内に集合し、開会式を行いました。バザー開始は10時30分の予定でしたが、各売り場の準備も早く終わり、お客様も並んで待っておられたため、10分ほど繰り上げてのスタートとなりました。

ローズハット前の「噴水前広場」では、アフリカンダンスの方々が踊りで盛り上げて下さり、ローズハット内では、おじさんバンド「やるならいましかねーず」の皆さんの演奏がお客様を迎え入れて下さいました。

今回はとちぎボランティアネットワークとの共催で、福島県いわき市より小浜風童太鼓の方々が力強い演奏を披露して下さいました。道の駅の隣の「村の大テント広場」での演奏だったため、野菜を買いに来たお客様が足を止めて下さいました。さらには星の家まつりに立ち寄る、そんな方々もいらした様です。

ジュニアヒップホップダンスの方々、親子ショーの方々も会場を盛り上げて下さいました。

バザー会場は開店後、沢山のお客様が会場を埋め尽くしました。食器、日用品、衣類、手作り雑貨、食品、本CD、おもちゃ、特売…各コーナーとも、ボランティアさんたちが工夫をこらし、丁寧に接客して下さいました。クロークコーナーも好評でした。お買い上げいただいた荷物を預けて、さらにお買い物される方の姿が印象的でした。チーズケーキ屋さんも出店下さいました。ハワイアンダンスの方々が踊りを披露されると、足を止めて見て下さる方もいらして、その余韻が冷めないうちに、恒例の林谷さん司会によるオークション！お酒が人気だった様です。

外の模擬店も、スムーズな準備のおかげで、販売も早めにスタートすることができました。今年も東原さんが釜持参でピザを焼いて下さり、焼き立てピザは15時の閉店を待たずに売り切れとなりました。短足おじさんの会の皆さんのフランクフルトも、早めの完売となりました。そして、今年もとちぎリボンズの皆さんが焼きそばを担当してくださいました。鉄板3枚フル稼働で完売となりました。各コーナーのチームワークもばっちり！毎年参加して下さるボランティアさんもいらっしゃれば、ボランティアセンターでボランティア募集を見つけて来てくれた高校生もいました。なお、毎年ラーメン・餃子を出店いただいている栃木照る照坊主の会の皆さんは今年も参加予定でしたが、台風19号の災害支援の要請があり、そちらに急遽行かれることになり、販売は中止となりま

した。とちぎユースアフター事業協同組合の方々は、今年もパンと飲物の販売を担当して下さり、パン屋さんとの交渉も一から引き受けて下さいました。パンもすべて早めに完売！希望の家の和久井さんの焼き芋も早めの完売！フォー＆タピオカ屋さんにも行列が！野菜、コーヒーも好評でした。

15 時には閉店となり、片付け作業に入りました。残品の箱詰め、トラックへの積み込みを終え、会場の椅子机を元の位置に戻しました。

16 時前には閉会式を行い、残品や備品をトラックに積み込み、平屋倉庫へ。一度では積み切れず、往復してもらうことになり、全ての作業が終わる頃には暗くなってしまいました。

皆様のご協力のおかげで、星の家まつりを無事に終えることができました。ありがとうございました。星の家まつりは、普段から「青少年の自立を支える会」の活動を支えて下さっている皆様の顔が見られる機会でもあり、感じられる機会でもあり、沢山の方々に支えられてこその活動なのだとあたたかい気持ちになると同時に、普段の子どもたちとのとの生活こそ大事にしなければ、と身の引き締まる思いでもいます。

今年の星の家まつりにも、星の家の子ども達が手伝いに来てくれました。月の家、はなの家の子どもたちも顔を出してくれました。星の家の OB、OG も来てくれました。子どもたち、元子どもたちがボランティアさんやスタッフと談笑している姿が印象的な星の家まつりでもありました。

《事務局から》

第２１回青少年の自立を支える会チャリティーコンサート

日時　令和２年２月２４日（月・振替休日）15:30～（開場 15:00）
場所　宇都宮市文化会館大ホール　チケット 1,000 円（全席自由）
出演　伊藤君子　ORQUESTA de ごじゃる！　スウィンギング・ハード

今回のコンサートはスペシャルゲストに日本を代表するジャズシンガーの伊藤君子さんをお迎えします。伊藤さんについてはジャズに全く関心のない方はご存じのない方もいますが、ちょっと興味のある方はよく知っているようです。先日も「すごい方が来るね！」と声をかけられました。ウィキペディアに記されている来歴は次の通りです。

香川県小豆島町生まれ
４歳のとき、ラジオ番組から流れる美空ひばりの歌声に魅了され、歌手を志す。1982 年、ポップ演歌歌手としてデビューする。その後、ジャズピアニストとの出会いをきっかけに、ジャズシンガーの道へ進み 1984 年４月より半年間ニューヨークに滞在しクラブ「サットンズ」に出演した。
1987 年にエディ・ゴメス『Power Play』（EPIC / SONY）の録音に参加した。 1989 年、日米同時リリースされたアルバム『Follow Me』が米ラジオ&レコード誌のコンテンポラリー・ジャズ部門の 16 位にチャート・イン（日本人女性歌手で初）。
2004 年、押井守監督の映画『イノセンス』主題歌を歌い話題となる。

お問い合わせは星の家（028-666-6023）まで
コンサートの運営を手伝ってくれるボランティア募集中です。

寄付・会費納入者

令和元年７月１日から令和元年１２月末まで　敬称略・順位不同

●正会費

●賛助会費

●寄付

●団体会費

紙面の都合のため別紙に記載いたします。
別紙は、星の家だよりと共に近日中に発行いたします。（コンサートのお知らせをできるだけ早く皆様にお知らせしたいため、申し訳ございません。）　（星 俊彦）

なお、沢山の方から食品や日用品などの物品をいただいております。ご芳名は省略させていただきますが感謝しお礼申し上げます。

ありがとうございました！

ご不明な点がございましたら事務局までお問い合わせください。**会費の納入及び寄付については預金口座の引き落としも可能ですので事務局にご相談ください。**

【編集後記】

この会報を編集しているさなか、厚生労働省の社会的養護専門官が来訪された。月の家の視察のためだが、えらく感動されていた。その二日前には全国児童家庭支援センターの会長さんもやってきた。

私たちの活動を全国に！そのためにももうひと踏ん張り。ご支援を！　（福

【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会　口座番号：００１４０－３－３６６９７２

＊通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

会員種別と金額は、

正会員：5,000 円、賛助Ａ：5,000 円／一口、賛助Ｂ：1,000 円／一口、賛助団体 20,000 円／一口です。

＊＊＊振込などの手間が要らない「**会費等の金融機関引落し**」のご利用をお勧めしております！＊＊＊

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会
発行日/ ２０２０年1月１４日
発行責任者/ 星　俊彦
編集責任者/ 福田雅章

所在地/320-0037 栃木県宇都宮市清住 1-3-48
電話/ 028-666-6023　FAX/ 028-666-6024
Ｅメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp
HP/ http://www.jiritsu.org